

登録コード	A3595468	開講年度	2026				
授業科目	専攻研究Ⅱ					担当教員	荒瀬 輝夫
英文授業名	Thesis ResearchⅡ						
単位数	5	講義期間	前期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	4年生（研究室配属後の学生対象）
講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	教員内線電話:2385（AFC，研究室名：野生資源植物学）
信大コンベンション	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2022アカリ，2021アカリ，2020アカリ，2019アカリ						
	【2022年度以前カリキュラム対象】専門的な知識や研究能力を修得している				⇔	資源植物学にかかわる専門的な知識や研究能力を身につける。	
	【2022年度以前カリキュラム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している				⇔	資源植物学にかかわる地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を身につける。	
	2026A3編（24A），2025A3編（23A），2024アカリ，2023アカリ						
	【2024年度以前カリキュラム対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				⇔	資源植物学にかかわる専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を身につける。	
	【2024年度以前カリキュラム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。				⇔	資源植物学にかかわる地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	1 未利用資源植物の作物・緑化利用 2 生物と人・環境との関わり 3 植物の分布・分類に関すること 4 自然環境の調査法・解析法に関すること など。 農学的な目的意識を持っていれば、基本的に研究テーマは野外／室内、植物／動物を問わない。low cost & high returnの創意工夫を。						
(5)授業計画	・調査・実験計画、中間報告、期末報告をゼミ形式で発表。 ・参考となる文献紹介のゼミ発表（英文含む）。 ・現地踏査、データ収集と解析、とりまとめ。 ・専攻研究論文要旨提出とプレゼンテーション（森林科学科）。 ・論文作成と添削指導、修正。 なお、授業の振り返りとして、最終回の授業の最後に授業アンケートを実施する。						
(6)自主学習の指針	・とにかく自分のフィールドを大切にしてい、机上の理屈でなく、自然から学ぶという態度を心がけること。 ・関連する文献の検索と読み込み、学会への参加（できれば発表）などで知見を広めること。 ・自分のテーマだけにとらわれず、周辺分野についても情報収集すること。						
(7)成績評価の基準	1）研究の目的・範囲を明確にし、2）ふさわしい調査・実験方法を設定して適切に実施し、3）結果をまとめ（統計処理・図表作成を含む）、4）既往情報を整理・比較しながら論証し考察することが求められる。1～4が十分に達成されていて説得力のある自分なりの考察・提言が行われていけば「卓越している」とする。1～4が充分達成されていけば「かなり上にある」、概ね達成されていけば「やや上にある」、基本的な項目が達成されていけば「水準に達している」とする。						
(8)事前事後学習の内容	調査・実験、結果の集計・統計処理、ゼミ発表、専攻研究論文作成、プレゼンテーションなどに当たって、事前準備および事後の学習・修正を充分時間をかけてもらいたい。						
(9)テストやレポートの予定	なし。						
(10)成績評価の方法	論文評価。評価基準は以下の通り。 秀：90点以上（授業の達成目標の水準からみて卓越している） 優：80～89点（授業の達成目標の水準よりかなり上にある） 良：70～79点（授業の達成目標の水準よりやや上にある） 可：60～69点（授業の達成目標の水準にある） 不可（D）：50～59点（授業の達成目標の水準よりやや下にある） 不可（E）：49点以下（授業の達成目標の水準よりかなり下にある）						
(11)質問、相談への対応および連絡先	研究室にて随時対応。						
(12)履修上の注意	4年間の総決算として学生最後の貴重な1年間を費やすわけですから、足跡を残し将来の糧ともなるよう、覇気をもって取り組んでください。						
【教科書】	なし。						
【参考書】	科学論文の書き方（田中義麿・田中潔 1975、裳華房）						